

4-1-6-9 眼科

1. 診療活動

1.1 外来

高度医療の目的から、外来は他院眼科で当院での診断、検査、治療を要すると判断され紹介された場合に限っており、北海道から沖縄まで全国からの紹介を受けている。ほぼ40名/日の診療を行っている。独立行政法人国立特殊教育総合研究所との連携のもとに、ロービジョン外来を行って、全国的なネットワークを形成した。さらに、本年度より角膜移植を含む難治性角膜疾患の治療のため、角膜外来を新たに設けた。

1.2 入院

ほぼすべてが手術目的の入院となっている。対象疾患は、斜視、眼瞼疾患などもあるが、白内障、緑内障、網膜硝子体手術などの内眼手術が半数以上を占める。いずれも、小眼球や先天異常を伴なう難治性症例であり、25G システムを始めとした最新の機器で検査・手術を行っている。ことに未熟児網膜症の硝子体手術は年間約50例を行い、復位率は70%と好成績である。さらに最近、早期硝子体手術を開始し、現在まで全例に網膜の復位を得ている。また、本年度より小児角膜移植手術を開始した。

2. 研究活動

臨床研究は、弱視・斜視疾患の病態研究、先天白内障、未熟児網膜症、網膜剥離、先天異常などの病態や治療成績の検討を行い、学会あるいは誌上発表を行った。

基礎研究では、形態形成遺伝子の機能解明、網膜の再生の研究を進め、学会あるいは誌上発表を行った。

3. 社会活動

教育・講演

(9.30) 平成16年度 国立特殊教育総合研究所 第二期短期研修「視覚障害教育コース」：視覚の病理

(6.15) 浜松医科大学医学部眼科学系統講義：眼の形態形成

(7.20) 杏林大学医学部眼科学系統講義：小児眼科

(11.12) 第8回眼科医ロービジョン研修会（東京）

医療機関と盲学校との地域ネットワークづくりのこころみ

：新井千賀子（国立特殊教育総合研究所）、仁科幸子（国立成育医療センター）、
視覚障害教育医療ネットワーク研究会